第３回　蕨市塚越ビジョン策定市民懇談会　議事概要（案）

■日　時　令和８年９月30日（水）　午後７時00分～午後８時30分

■場　所　東公民館３階　集会室

■出席者（敬称略）

委　員：上野 梢、野澤 俊夫、村田 郷子、鈴木 眞知子、野本 信幸、町田 純、
青木 祥夫、座光寺 剛、福田 力、小松 彩華、貫井 賢治、河村 浩康、
山田 麗子、高橋 義貴
（欠席者）宮嵜 直子

事務局：小柴 正樹(総務部長)、島田 雅也(政策課長)、
菊地 雅治(政策課長補佐)、藤田 睦子（政策課主事)、
岡本 啓太郎(東公民館長)、助石 菜穂子(東公民館事業係長)

傍　聴：２名

■次　第

１．開会
２．議題
（１）意見交換
（２）その他
３．閉会

■内　容

【開会】

【議題】

※議事については、岡本東公民館長がファシリテーターとして進行

（１）意見交換

事務局から、第２回の議事録の確定と資料の説明をした。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：資料１で示された取組項目（素案）について、意見を伺いたい。

委　　員：前回の懇談会における意見が網羅されており、分かりやすい資料である。

委　　員：これまでの意見が分かりやすく集約されているとともに、市民が地域の未来に期待をもてるような要素がまとめられている資料である。
資料に「『塚越商店会』は、市内11ある商店街のなかで最も来訪人数の多い…」と記載されているが、「来訪人数」をどのように定義しているのか疑問に思った。実際にそれほど多くの来訪があるのか、もし実際に商店街の利用者が多いのであれば、その強みを活かしたまちづくりを進めていく

と良いのではないか。

委　員：これまでの意見が分かりやすく集約された資料である。

委　員：多数の意見を取りまとめるのは非常に大変な作業だったと思うが、よくまとまった資料になっている。どの意見も納得できるし、塚越の未来に期待をもてる内容になっている。

委　員：これだけの資料を作成するには相当な労力を要すると思われるため、敬意を表したい。塚越地域は、かつて塚越村という行政単位だったが、その後の合併を経て蕨市となった後、蕨市の中心部が蕨駅の西側となってしまい、分断されてしまった。本ビジョンは、交通アクセスの改善など人の往来を活性化する取組を通じて、塚越を西側地域と同じ水準まで引き上げることを目指しているのか、あるいは、塚越地区だけで行政機能を完結させるような特別なことを目指しているのか。

委　員：多岐にわたる取組のなかで、繰り返し取り上げられている外国人住民との共生は、特に重視すべき点だと考える。また、市民公園へのボール遊びができる施設の整備は、良い取組であるが、整備に際して公園内の大きな木が伐採されてしまい、残念に思った。良い取組を推進していく一方で、その実施方法については、工夫していく必要があると考える。

委　員：コミュニティ・スクールについては、塚越地区が市内で最初に開始されたのだが、資料の取組のなかでは、コミュニティ・スクールに触れている記述が少ないように思う。また、道路整備について、主要な道路の補修だけでなく、市民が日常的に利用する入り組んだ小規模な道路の整備も重要である。

委　員：分かりやすくまとまった資料だと思う。商店街は、市民の皆さんの努力によりにぎわっているという印象があるため、今後は商店街の魅力を更に発信していくことが重要だと考える。また、教育については、コミュニティ・スクールなどの良い取組を内部だけでなく、外部へも発信していく必要があると認識している。

委　員：資料は、大変分かりやすく良いと思う。DXの推進は、ビジョンの策定において重要な要素である。資料にも記載されている「オンライン窓口の設置」や「AI等を活用した新たな交通システム」といった取組を積極的に推進することで、コミュニティの活性化や外国人住民の生活利便性の向上、交通利便性の向上（運行ダイヤの見直しやニーズに応じたサービスの提供など）にも寄与し、より魅力あるまちづくりが実現できると考える。

委　員：このビジョンを塚越地区に少しでもプラスになる形にするため、まずは取り組みやすいものから着手していくべきだと考えている。現時点で最も取り組みやすいものは、東公民館へのオンライン窓口の設置だと思う。資料には、市役所等の担当と遠隔で対応できる窓口とあるが、例えば、スマートフォンの操作に不慣れな高齢者を支援するために、高校生や大学生がボ

ランティアでサポートする仕組みを取り入れたら良いのではないか。

委　　員：先ほど他の委員からも指摘があったが、私も塚越商店会の「来訪人数」の定義について、疑問に思った。「来訪」とは本来、目的をもって訪れることを意味し、通勤・通学の途中に商店街を通過する人まで来訪者に含めるのは不適当だと思う。また、塚越ビジョンは、塚越地区の課題解決や未来への施策を展開していくためものと理解しているが、その上で、商店街の本質的な目的は、アクセスを向上させて近隣市からの回遊性を高め、目的を持って訪れる方を増やすことにあると考える。現状、蕨駅の西側と東側で分断されてしまっている中で、アクセスの向上は、両地域の発展、ひいては塚越全体の発展にもつながると考えるため、こうした点に焦点を当て、人の流れを根本から促進するような構造的な施策を進めていくべきだと考える。

委　　員：資料は、委員と市の双方が認識する課題が網羅され、充実した内容である一方、課題の多さが浮き彫りになった。今後は、それらの課題を解決する方法として、多くの市で実施しているような一般的な方法を取り入れるのか、あるいは革新的な一手を投じて飛躍的な進展を目指すのかなどさまざまな方法が想定される。リーダーシップをもった人がどのような方法で解決を図るかが、今後の重要な検討課題だと考える。

委　　員：資料は、大変よくまとめられていると思う。課題が多く示されている点はむしろ今後のさまざまな可能性が見えてきたということではないだろうか。市民公園は、塚越地区を代表する公園であるため、日常的に市民が利用でき、訪れたくなる場所となると良い。また、カフェのような施設を整備すれば、市民だけでなく市外からも多くの人が足を運んでくれるような場所にできると考える。

委　　員：資料は、大変よくまとめられていると思う。近年、少子化がますます課題となっている中、子どもたちが住みやすい環境を整備することに注力すべきだと考える。また、塚越プールを活用した釣り堀がこれほど多く利用されていることを初めて知った。利用者が増加すればその分収益が見込めるため、上手く活用していくことで、塚越地区がさらに活性化すると考える。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：資料については、概ね好意的な意見が寄せられた。委員からご指摘のあった塚越商店街の「来訪人数」の表現について、事務局から何かあるか。

事 務 局：「来訪人数」という表現については、定義がどのようになっているか等を改めて確認し、どのような記載にするか検討させていただく。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：資料１について、他に意見があれば伺いたい。

委　　員：資料５ページの市民公園でのイベント実施については、市主催のウォーキングイベントが記載されているが、市主催のイベント以外にも蕨商工会議所が主催しているイベント等も実施されていることから、これらのイベントにも触れられると良いのではないか。

委　　員：先日、生涯学習フェスティバルで学生による吹奏楽の演奏を鑑賞した際、若者の持つエネルギーを感じた。本ビジョンにおいても、こうした活力ある若者が活躍できる要素を取り入れると良いと考える。

委　　員：市民公園の中心にある広場は、雑草の繁茂や石の散乱により路面が凸凹しており、お祭りで輪踊りをする際に危ない状況である。資料にも市民公園の整備について触れられていることから、本ビジョンの策定に際しては、当該広場を平坦に整備してもらいたい。

委　　員：地域の活性化には中学生や高校生など若者の活躍が重要だと考える。最近、国でも「学校を核とした地域づくり」を推進しており、学校を単なる教育現場にとどめず地域の中心に据えることで、地域全体で子どもたちを支える意識が高まり、活性化につながるとされている。そのため、中学生や高校生に地域のボランティアとして活躍してもらうなど、若者を地域の中で生かしていくという視点も盛り込んだ方が良いと考える。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：次に、資料２で示された塚越ビジョンの目標・コンセプトについて、意見を伺いたい。

委　　員：このコンセプトが塚越を表すものになるため、分かりやすい言葉が良い。そこで、案①と案⑥を基に**「市民公園が、コミュニティとにぎわいをつなぐまち」**と**「コンパクトでもワクワク、塚越コミュニティの底力」**の２つのコンセプトを考えた。

委　　員：**「豊かな緑・行き交う人びと、文化とつながり織りなすまち」**というコンセプトを考えた。「豊かな緑」は市民公園の緑を、「行き交う人びと」は市民公園周辺での交流から生まれる人々の緩やかなつながりを表した。また、「文化」は教育や福祉を表し、「つながり織りなす」はコミュニティのつながりと、双子織を掛け合わせ、地域への愛着心を呼び起こす表現として用いた。

委　　員：案①と案⑤が良い。案①は、塚越の特徴である市民公園や緑をキーワードに盛り込みつつ、「紡ぐ」という語が塚越稲荷神社と重なる点が良い。案⑤は、「塚越ベース」でも「塚越リンク」でもどちらでも構わないが、将来に向けて子どもたちが健やかに育つことが、塚越のにぎわいと豊かなコミュニティにつながるというニュアンスを感じられる。

委　　員：「つながる」と「紡ぐ」という語が塚越稲荷神社を連想させ、魅力的だと思ったので、この２語を用いて**「つむぐ、つながる塚越」**というコンセプトを考えた。

委　員：塚越稲荷神社は、塚越地区を象徴する存在であり、市の歴史的な文化財でもあることから、今後も大切に保全していくべきである。

委　員：案④の「人がつながる」は外国人住民を含め塚越の住民がつながっていくことを、「緑」は市民公園を、「文化」は機織りの文化をそれぞれ表していて良いと思ったので、これらを簡潔にまとめ**「人と緑と文化で、元気」**というコンセプトを考えた。

委　員：「市民公園」という言葉が含まれているため、案①が良い。

委　員：案⑥に「塚越」という言葉を追加して、**「ワクワクを生む、塚越コミュニティの底力」**というコンセプトを考えた。

委　員：案①と案⑦が良い。案①については、市民公園だけでなく他の公園もあることから「市民公園」よりも「緑」という言葉を用いる方が望ましい。案⑦については、「つながる」よりも人が入り交じるイメージを喚起する「紡ぐ」という言葉に変更し、さらに外国人との共生を連想させる「グローバルコミュニティ」を用いて、**「人が集まり、紡ぐ、グローバルコミュニティ塚越」**としてはいかがか。

委　員：案⑤の「育む」という言葉を「織りなす」に変更し、「緑」という言葉を追加して、**「塚越リンクで織りなす、人と人とがつながる緑のまち」**というコンセプトを考えた。

委　員：「人」「紡ぐ」「つながる」の３つのキーワードをうまく組み合わせたコンセプトが良いと考える。

委　員：外国人住民が理解しやすいコンセプトとした方が良いと思ったので、名称を全てアルファベット表記に統一し、**「塚越コミュニティランド」**というコンセプトを考えた。

委　員：案①は良いが、「豊かな文化」という表現が壮大すぎるため削除し、**「市民公園が（で）、コミュニティとにぎわいを紡ぐ塚越」**としてはいかがか。

委　員：案①の「市民公園」という言葉をベースに、少し文面を変更するのが良いと考える。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：案①について、比較的好意的なご意見をいただき、また、案①をアレンジした提案も多くいただいたので、案①をベースにしたものを残しつつ、他にも独自に提案していただいたものなども含め、残した方が良いものがあればご意見を伺いたい。

委　　員：私が提案した**「豊かな緑・行き交う人びと、文化とつながり織りなすまち」**というコンセプトは、案①に近い。ただし、「コミュニティ」を中心に据える表現には抵抗感を持つ人がいる可能性を考慮し、表現を工夫して「行き交う人びと」という言葉を用いた。

委　　員：私は、外国人住民が理解しやすいようアルファベット表記を提案した。そのため、案①も外国人住民に配慮した表現にするのであれば、案①で問題ないと考える。

委　　員：「市民公園」などの具体的なキーワードは不要だと思う。コンセプトを説明する際に、込められた意味が伝われば十分であるため、キーワードを詰め込まず、分かりやすさを重視したコンセプトとした方が良いと考える。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：委員各位よりさまざまなご意見をいただいた。これらを踏まえ、事務局にて案①をベースとして、ご意見にあったようなアレンジを反映した候補案を作成し、第４回会議にて提示の上、最終決定を行いたい。

（２）その他

事務局より、次回の予定などについて説明した。

【閉会】

以上